

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">総合演習Ⅱ</p>	<p>対象学科・学年 教育教福2回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">和田野 康子</p>
<p>授業テーマ</p> <p>子どもの「問題行動」を通して見る子どもの訴え・親の思い</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>家出、非行などの反社会的行動、不登校などの非社会的行動など、いわゆる子どもの問題行動の背後には、言葉で表現できない子ども達の悩みや葛藤が隠されていることが多い。しかしそのような子どもの訴えは大人には理解しがたく、子育てに戸惑う親も少なくない。親子間のもつれた糸を解きほぐすには、関係者の暖かいまなざしと、息の長い支援が必要となる。</p> <p>この授業では、テキストにあげられたさまざまな事例を通して、問題行動の背後にこめられた子どもの願いを読み取ることや、親への支援のあり方について学ぶ。その後受講生には、これらに関連するテーマを選び、グループで研究し、発表してもらう。</p>		
<p>評価方法</p> <p>平常点（出席日数+授業参加への積極性）と研究発表（内容・プレゼンテーションの仕方など）により、総合的に評価する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>児童相談所で出会った子どもたち</p>	<p>著者 山縣文治 監修</p>	<p>出版社 ミネルヴァ書房</p>
<p>参考書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業内容・授業方針など） 2. 第1章 援助を求める子どもたち （1節 ラブレター 2節 誰にも言えなかった 3節 わたし、施設に入りたい） 3. 第1章 援助を求める子どもたち （4節 友達の家にとめてもらいます） 第2章 親を困らせる子どもたち （1節 今度言うことかへんかったら、施設に入れるよ 2節 いつか謝ります） 4. 第2章 親を困らせる子どもたち （3節 雨そして傘の中の君 4節 陽子、14歳） 5. 第3章 とまどう親たち （1節 私はどうなるの 2節 子どもが欲しい 3節 今日、ママと一緒に帰ろう） 6. 第3章 とまどう親たち （4節 今度こそちゃんと育てる） 第4章 不登校の子どもたち （1節 子どもに寄り添っていこう 2節 心のなかの家づくり） 7. 第4章 不登校の子どもたち （3節 会えてよかった 4節 翔子の旅） 第5章 一時保護所で暮らす子どもたち （1節 こっちをむいて） 8. 第5章 一時保護所で暮らす子どもたち （2節 一時保護所のある一日 3節 本当は甘えたいー反発から甘えの表現へ 4節 大好きなお母さんと離れて） 9. 第4章 不登校の子どもたち（その2） 10. グループ研究Ⅰ（班編成・テーマの選定） 11. グループ研究Ⅰ（文献・資料収集） 12. グループ研究Ⅰ（発表） 13. グループ研究Ⅱ（班編成替え・テーマの選定） 14. グループ研究Ⅱ（文献・資料収集） 15. グループ研究Ⅱ（発表） 		